

平成26年度 第2回岐阜県農業農村整備委員会

議事要旨

- 1 日時：平成27年3月25日（水） 10：00～12：00
- 2 場所：ふれあい福寿会館 405会議室
- 3 出席者
別紙のとおり
- 4 議題
議題1：ぎふ水土里のプロジェクトについて
- 5 議事要旨

【ぎふ水土里のプロジェクトについて】

（平成26年度の取組み実績）

- 田んぼの学校活動事業は、平成26年度の「人づくり」というテーマの根底にあると思う。事業実施の学校はどのように決めているか。また、全県的に広めていくような考えか。（森委員）
→県の考え方としては、全県的に広めていきたいとの考えがあり、新たな学校での実施について各農林事務所にて検討してもらっている。しかし、続実施の要望が強い小学校も多く、そうした学校に対し、次年度はやらないと言いつらいということもある。（岩本技術主査）
→4月に校長会があり、農林事務所が出向き、田んぼの学校事業に参加したい学校に連絡をもらうようなこともしている。（富永技術課長補佐）
→岐阜農林事務所管内では、4校すべて継続実施である。4月に学校長に継続の意向について確認をとり、実施するという形で取り組んでいる。新規の開拓も重要であるが、継続していくことも重要との考えがあり、現在の形で実施させていただいている。（川島技術主査）
- 若い力で元気で創出ふるさと支援事業について、正ヶ洞棚田での岐阜大学の活動はひまわり棚田の実施と理解していたが、田んぼアートに変わったのか。（市川委員）
→岐阜大学の「里山暮らし応援隊」の活動は、3年目で本年度が最終年度となった。地元の子供会と協力して、稲での田んぼアートとひまわりでの田んぼアートに取り組んだ。ひまわりの田んぼアートは、地元の小学生にデザインを募集し、種まきをしてみたが、鳥に種を食われてしまいうまくいかなかった。（藤田技術主査）
- 若い力で元気創出ふるさと支援事業は棚田でなければ対象とならないのか。（市川委員）
→棚田の基金を財源としているため、棚田でなければならない。（岩本技術主査）
- 外部の人間が地域に入ることは非常に難しいことである。農業施策は、地域づくりにとって、一部でしかなく、目指すべき姿（計画）が作られている地域において、外部から来た人間がその計画を無視して提案することは好ましくない。（駒宮委員）
- 全体的にやっつけようという計画が作られている地域ばかりではない。地域の将来計画を立てる際に、若い人の意見を聞く機会が出来ればよいと思う。（松本委員長）
- ウォーキングや田んぼの学校について、色々な機関、部署で実施されている。縦割りではなく、もっと地元目線でこうした事業を整理し、実施した方が効果的である。（駒宮委員）
→水土里のプロジェクトの中で実施する「田んぼの学校」は、農業農村の多面的機能を知っていただくことを主眼に置いて実施している点が特徴といえる。（岩本技術主査）

- 農政部の中でも、当課以外にも食育を担当する農産物流通課の関係で実施するものもある。県内の小学校97～98%で何らかの農業体験を実施している。そうした中で、本事業で実施する田んぼの学校は、農林事務所が積極的に関わり多面的機能を説明するものと位置付けている。(桂川課長)
- 田んぼの学校と言いながらも、田んぼで稲作をするためには、水が必要でそのための水路が整備されてきた。水みちをたどるだけでも、農村がいかんにかしてできたかを学ぶこともできる。田んぼの学校に限らず関係する事業について、農林部局だけでなく、他の関連団体で実施しているものもリストアップするとよい。自ら実施するには限界があるので、他事業と連携して実施する手法も検討した方がよい。(松本委員長)
- コープぎふでも農業体験活動を実施している。県でこうした事業を実施していることを正直知らなかった。コラボすることは可能なので、情報の発信と共有をお願いしたい。(林委員)
- 里地生態系保全支援事業の水田魚道の取組みは非常に評価できる。また、団体へ補助金を出している取組みの中で、ウシモツゴの復元放流というものがある。放流というものをやみくもにやってはならない。この団体が実施しているものは日本魚類学会が策定している放流ガイドラインに沿ったものであり評価できる。(森委員)
- さらに、同事業で市町村に補助金を出しているスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の駆除について、効果を検証していく必要がある。(森委員)
- スクミリンゴガイの駆除について、簡単に評価できるものではないが、継続して実施している市町村については、同じ水路で前年度との比較や、単純に総量を比較するなどして効果検証していくことを考えている。検証できた際には結果を示させていただく。(岡山技術課長補佐)

(平成27年度の取組み方針)

- 平成26年度に実施していて27年度にやめてしまう事業、27年度に新たに実施していく事業について説明を求める。(松本委員長)
- 隔年で開催している『ぎふ水土里の魅力写真コンクール』を平成27年度は実施する。平成27年度から新たに『ぎふ水土里のデジタルアーカイブ事業』を実施する。一方、「ぎふ水土里の体験スタンプラリー」については、新規事業に予算が必要となるため、一時休止することとする。(富永技術課長補佐)
- 平成27年度からデジタルアーカイブ事業に取り組むこととした背景には、ため池、農業用水路など貴重な農業資源が徐々に忘れ去られたり、無くなったりしている。これを今、整理しておきたいと考えから事業化した。現在、岐阜県では農業遺産に取り組んでいるが、こうした農村遺産をデジタルアーカイブ化し、一般の方に知っていただくと共に、しっかりと引き継いでいく。(桂川課長)
- こうしたものを整理できるのは今が最後かもしれない。実施の際には、映像だけをポイントでまとめるのではなく、農村資源はその当時の生活と共に作り上げられたものであるため、郷土史などと結び付けていただきたい。ただ単に資源マップを作るだけにならないように。(松本委員長)
- 新たな事業の実施に伴い、スタンプラリーを休止する点について、ご了解いただけるか。(松本委員長)
- 異議なし(各委員)
- デジタルアーカイブ事業は何年の計画の実施予定か。(松本委員長)
- 平成27年度は、まず資源のリストアップと取りまとめを行う。その後、棚田、疎水、ため池など項目ごとに映像化資料の整理を行うこととしている。(岩本技術主査)
- 項目別にまとめるのではなく、地域でまとめていただきたい。(松本委員長)
- 生きている遺産としてまとめる必要があるということか。(桂川課長)
- 文化遺産というと、ほとんどがハードを残すというものである。私の仲間で、聞き書きをやってほとんど本にしている。これこそが文化で、物はそれに付随しているものである。(駒宮委員)
- 中野方では聞き書きをやられており、参考にするとよい。(松本委員長)
- デジタルアーカイブとしてとりまとめる対象は、民族、伝説、石碑など文化的なものも対象にしてもよいのか。農業土木遺産的にまとめるのではなく、地域に残る文化、文化財も取り込んでまとめられるとよい。また、例えば、昔のため池の管理方法なども聞き取りしまとめるとすれば、水管理の歴史にもつながる。(森委員)

→デジタルアーカイブ事業だけでなく、農村振興課では、農村遺産という形の事業を基本計画に位置付け、展開していくことを検討している。（桂川課長）

○大変重要な事業だと思うので、是非取り組んでい頂きたい。（松本委員長）

（ふるさと水と土指導員の活動助成について）

○助成額の決定に関する考え方を説明いただきたい。（松本委員長）

→予算額に対し要望額が上回ったため、査定させていただいた。なお、要望額が少ない方は査定の影響を受けやすいため、要望額に応じ査定率を変えている。（冨永技術課長補佐）

○27年度の指導員活動は今回の審議案件のみということによいか。（松本委員長）

→よい。予算額が不足し要望額を満たしていない状況であるが、事業の執行状況に応じ予算に残額が生じる見込みがある場合には、要望額の範囲内で配分させていただくこととしたい。（冨永技術課長補佐）

○恵那市の指導員の活動内容（農村イルミネーション）が若い力で元気創出ふるさと支援事業の事業内容と重複している。大学生から平成27年度に同様の活動が出てきた場合、対象となるのか。（市川委員）

→大学生の提案内容の中にイルミネーションの活動に対する経費が含まれている場合は、その対象経費はカットとさせていただく。（岩本技術主査）

○本日の審議については、岐阜県農業農村整備委員会として了承。（松本委員長）

(別紙)

平成26年度 第2回岐阜県農業農村整備委員会出席者名簿

□委員 8名

(50音順)

氏名	主な職名	備考
石田 賀代子	ビスターリマーム 代表	
市川 郁子	元えな土地改良区事務局次長	
林 智子	生活協同組合コープぎふ理事	
駒宮 博男	(特非) ぎふNPOセンター理事長	
中島 博隆	農業 指導農業士	
服部 昭彦	農業 岐阜県コミュニティ診断士	
松本 康夫	岐阜大学応用生物科学部教授	
森 誠一	岐阜経済大学経済学部教授	

■関係者等 15名

氏名	所属・役職	備考
(農村振興課)		
桂川 直人	農村振興課長	
岡山 和広	農村支援係 技術課長補佐兼係長	
桑原 一浩	農村支援係 技術主査	
富永 一成	農村企画係 技術課長補佐兼係長	
岩本 英司	農村企画係 技術主査	
(農地整備課)		
櫻井 優一	農地防災係 主任技師	
(農林事務所)		
川島久美子	岐阜農林事務所農地整備課 技術主査	
田邊 幸大	西濃農林事務所農地整備課 技師	
土川 祐司	揖斐農林事務所農地整備課 技術課長補佐兼係長	
可児 忠衛	中濃農林事務所農業振興課 技術課長補佐兼係長	
藤田 真司	郡上農林事務所農地整備課 技術主査	
古賀 幸恵	可茂農林事務所農地整備課 技術主査	
中島 伸也	東濃農林事務所農業振興課 係長	
奥村 英敏	下呂農林事務所農地整備課 係長	
倉 浩二	飛騨農林事務所農地整備課 技術主査	